

ASEAN

GDP (2021年1-3月)

長引く防疫措置の影響から消費回復に遅れ

政策・経済センター
橋本 拓摩
03-6858-2717

1 実質GDP成長率

2 名目小売売上高

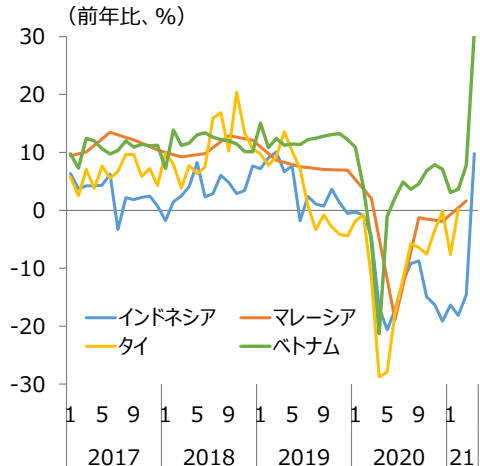
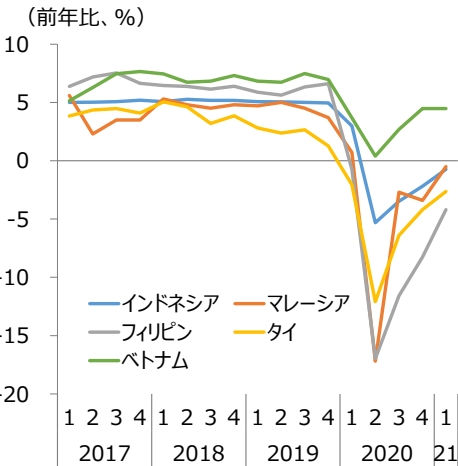
評価ポイント

今回の結果

- 21年1-3月の実質GDP成長率は、フィリピン（前年比▲4.2%）、タイ（同▲2.6%）が5期連続のマイナス成長となり、経済の低迷が長期化している（図表1）。また、インドネシア（同▲0.7%）やマレーシア（同▲0.5%）は輸出の回復が牽引し、4期連続のマイナス成長となるも、マイナス幅は縮小した。
- 一方、ベトナムの経済成長率は前期と同じく同+4.5%とプラス成長を続けているなど、国ごとで回復ペースにはばらつきが出ている。

基調判断と今後の流れ

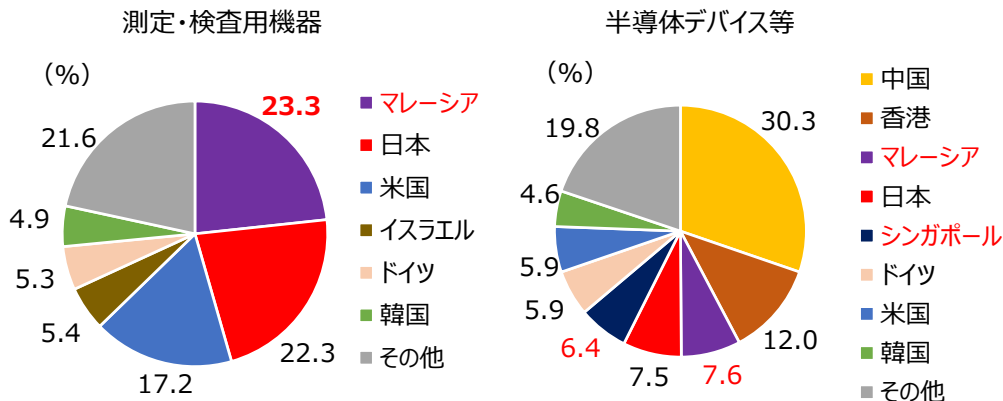
- ASEAN地域でも変異株による感染が広がっており、長引く防疫措置の影響から、家計部門は引き続き弱い状況にある。一方、企業部門は米中向けの堅調な輸出がけん引し、回復傾向にある。
- まず、経済のマイナス要因となっている家計部門について、小売売上高の動向をみると、感染抑制に成功しているベトナムを除くASEAN主要4カ国では、長引く防疫措置の影響等を受けて消費の回復が遅れている（図表2）。
- さらに、GDPに占めるインバウンド需要比率の高いタイやフィリピンでは、サービス輸出のほか国内消費、雇用面へのマイナスの影響が長期化する見込みだ。
- 一方、プラス面として、ベトナム、マレーシア、インドネシアではデジタル関連財などの輸出が好調であり、景気回復が進む中国や米国向け輸出が牽引している。
- また、米中対立の主戦場となっている半導体等の分野ではASEAN地域が輸入代替先的有力候補となり得るため、同地域の輸出動向、経済成長にプラスの効果をもたらす可能性が高い。多くの欧米半導体企業の誘致に成功したマレーシアは、半導体関連品目で世界的に競争力の高いポジションにある（図表3）。
- 以上を踏まえ、ASEAN5の経済を見通すと、輸出が堅調に推移するも、ワクチン普及に時間を要することで経済活動の抑制措置が22年にかけて断続的に続くシナリオを想定し、21年の成長率を前年比+5.2%と予測する。



出所：CEICより三菱総合研究所作成

出所：CEICより三菱総合研究所作成

3 半導体関連品目の世界全体の輸出に占める国別シェア (19年)



注：各品目は以下のHSコードにもとづき集計。測定・検査用機器は903082、半導体デバイス等は8541。台湾は統計に含まれていない。

出所：UN Comtradeより三菱総合研究所作成